

福祉文教委員会先進地視察報告書

日 時	平成30年5月15日(火)午後1時30分から午後3時30分まで
視 察 先	埼玉県ふじみ野市
視 察 項 目	小中学校の普通教室へのエアコン設置について
視 察 者	委員長 渡邊真弓 副委員長 伊藤清一郎 委 員 林 正則、久野たき、富田一太郎、勝崎泰生、夏目 豊
視 察 内 容	<p>ふじみ野市では、小中学校にエアコンを設置したいという市長の強い思いから、平成25年12月定例会に請負契約の議案を議会に提出し、全会一致で可決され、26年7月から小中学校の普通教室（19校343教室）でエアコンが稼働している。</p> <p>整備費用は、設計費も含めて、6億5,049万5,000円で、このうち、空調工事充当分として学校施設環境改善交付金1億5,448万7,000円（補助率3分の1）が国から交付されている。</p> <p>空調機の使用マニュアルを作成しており、各学校に毎年配付しているが、温度や使用時間、冬季の暖房使用などは、最終的には、学校長の判断になっているとのことであったが、設置してから電気使用量が増加し続けているとのことであった。</p> <p>同市は、子育て世代が流入し、人口が増加傾向にあった。小中学校の普通教室は、子どもの数によって増減があるため、今後、普通教室が不足した際に空調機をどうしていくのかといった対応を検討していくことが必要であるとのことであった。</p>
所 感	<p>「子ども優先のまちづくり」を掲げる市長の政策が具現化されていた。</p> <p>エアコン設置に伴い、夏季休業を10日間短縮しており、これに伴い通常カリキュラムのスケジュールが緩和されているとのことであった。</p> <p>扇風機とエアコンの併用の効果を確認することができ、また、冬季は、ストーブと併用されており、一年間通じての運用コストの検証も重要であると感じた。</p> <p>空調設備の使用基準に関しては、教育委員会によって平成26年6月に基本マニュアルが作成されていた。しかし、学校現場での実際の使い方と相応していないところもあるとのことであり、導入から3年が経過しているため、マニュアルの見直しが必要ではないかと感じた。</p> <p>今回の空調機設置に当たっては、リース方式を検討していなかったが、時間があれば検討する一つの方式との発言が工事担当者からあった。本市においても、コンペ方式・リース一括発注など様々な観点で十分に検討することが必要だと改めて感じた。</p> <p>本市においても、小中学校への空調機設置が進められているが、設置に当たっての費用対効果、維持管理の方法、運用基準などの実態を確認することのできた有意義な視察であった。</p>

日 時	平成30年5月16日(水)午前10時から正午まで
視 察 先	埼玉県三郷市
視 察 項 目	三郷中央えきちか 子育て・保育事業について
視 察 者	委 員 長 渡邊眞弓 副委員長 伊藤清一郎 委 員 林 正則、久野たき、富田一太郎、勝崎泰生、夏目 豊
視 察 内 容	<p>三郷市では、平成17年つくばエクスプレスが開通し、三郷中央駅が開業した。東京都内まで約20分という利便性の向上や、駅周辺が住宅地として区画整理されたことなどにより、大規模マンションや一戸建ての建設が相次ぎ、子育て世代の流入が開始した。</p> <p>同市は、高まる保育ニーズへの対応として民間保育所の誘致を行い、マンション事業者の協力を得て、25年4月、マンション内に私立認可保育園「みさとしらゆり保育園（社会福祉法人千葉学園）」が開園した。また、マンションの販売事業者からテナントの一部を子育て支援センターとすることについて寄附の申し出があり、保育園と連携する形での開設を決定し、同年6月に「三郷中央駅前子育て支援センターにここ」を開設した。</p> <p>開設当初は市直営で事業展開していたが、同マンション内での、より一体的な保育・子育てサービスを展開するため、27年10月から、みさとしらゆり保育園に業務委託を行った。</p> <p>具体的な取り組みとして、子育て支援センターにここでは、育児相談や子育て家庭の親子が気軽に集えるサロンの開催など、また、みさとしらゆり保育園では、通常保育に加え、一時保育、送迎保育などが行われていた。</p> <p>同市においては、子育て世代の流入が当分の間続くことが予測されることから事業の量的な拡大、また、三郷中央駅を拠点として市内全域に広がるネットワークを構築していくことが課題であるとのことであった。</p>
所 感	<p>三郷市では、三郷中央駅前に建設された大型マンションのテナントの一部を利用した子育て支援センターが直営で始まり、その後、同マンション内で民間保育所との一体的な保育所・子育てサービスの展開を目的に、みさとしらゆり保育園に業務委託が行われており、子育て支援施設と保育所の連携による事業展開が参考になった。</p> <p>保育ステーションの待機場所は、日中は空き部屋となるため、一時保育に利用するなど効率的に活用していた。しかし、利用者は三郷中央駅周辺に住む人だけとのことである。三郷中央駅の日当たりの乗降客数が2万人から3万人と、電車通勤が比較的多く、送迎保育の需要があるが、利用者が限定されるということに課題があると感じた。</p> <p>子育て世代の転入が続いていることから、三郷市の子育て支援担当者も事業について一定の評価をしていた。駅前という立地を効果的に活用した取り組みで、子育て世代のニーズに応えた本事業の有効性、課題などを確認することのできた有意義な視察であった。</p>